フランスにおける茶の消費動向について

<静岡市依頼内容>

フランス人の茶の嗜好性や消費動向についての客観的なデータを入手することで、茶のポジショニングを把握し、今後実施するプロモーション及び輸出する商品選定の参考とする。

日本茶の流通状況、日本茶への嗜好・評価等

※ フランスにおける日本茶の市場動向については、JETROパリ事務所による「日本産海外有望農林水産物品目発掘調査研究日本茶(2016年)」及び「日本食品消費動向調査 フランス (2017年)」において網羅的に報告されている。

本依頼調査については、当該JETRO調査以降(2018年以降)に当事務所で得られた情報を中心に報告する。

<フランスにおける茶の市場動向>

フランスの「茶(thé)」の消費量は、過去25年間で3倍に増え、1日に15億杯が飲まれている。茶に係る市場規模は、2020年は5億ユーロにのぼり、2017年と比較すると28%増加している。中でも、ハーブティー(thé infusion)や有機(bio)製品の消費が増加しており、対前年比では25%増の売上額を記録している。約10年前にはフランス人の2人に1人が茶を飲んでいたとされたが、現在では3人に2人と増加している。また、2人に1人がハーブティーを好む。茶の消費形態としては、フランス人の6割がティーバッグ入りのお茶を飲んでおり、フランスで最も多く流通している。1

なお、新型コロナウイルス感染症によるロックダウン、夜間外出禁止令及び飲食店の閉鎖例等に伴い、家庭内消費が牽引しており、2020年は対前年比で7%の消費量が増加した。²

フランス人の茶の年間消費量は、1人あたり250g(参考:英国人は2.3kg)とされる。フランスでは年間15,000トンの茶葉が輸入されており、現在、世界で30番目の茶葉消費国となっている。フランス国内の茶市場としては、ユニリーバ(Lipton)、Tata Global Beverages(Tetley)、Foods International (Twinings) などの国際大手企業が進出しているが、フランスで消費される茶の約半分は依然としてフランス企業によるものである。フランスの茶専門店であるCompagnie Coloniale (フランス最古の紅茶ブランド)、Mariage Frères、Betjman & Barton、Palais des Thésは、それぞれ売上の20%ずつを占め、年間10%の売上増を続けている。3

¹ Etudes-et-analyses.com, Le marché du thé en France [https://www.etudes-et-analyses.com/blog/decryptage-economique/marche-the-france-02-03-2021.html](最終検索日:2022 年 12 月 27 日)

² Libre Service Actualités, La consommation à domicile de boissons chaudes en plein boom [https://www.lsa-conso.fr/la-consommation-a-domicile-des-boissons-chaudes-en-plein-boom,377188] (最終検索日:2022年12月28日)

³Forbes, Actuali-thés : où en est le marché du thé ? [https://www.forbes.fr/lifestyle/actuali-thes-ou-en-est-le-marche-du-

JETROパリから得た情報によれば、フランスでの茶の消費の伸びは著しく、輸入量は1994年に8,600トンであったものが、約20年で1.7倍以上伸びている。また、茶の消費の内訳は、紅茶が70%、緑茶が25%、中国茶が2%、その他の順である。

<茶の消費者層>

フランスでの茶は、価格競争により大型スーパーや小売店では低価格商品も流通しているが、専門店による高級茶も根付いてきている。例えば、お茶専門店の「クスミティー」は、現在、フランス国内に55店舗を展開し、売上高は7,700万ユーロに達する。このようなお茶専門メーカーが伸びているのは、フランス人のお茶に対する強い嗜好、特に最高級茶、オーガニック茶、グラン・クリュ(特級)レベルのお茶等、高級嗜好を反映したものでもある。フランスのお茶の消費者層は、これまで主に安定した収入のある顧客とされ、その大部分は裕福なライフスタイルを持つ退職した女性であるとされてきた。4 しかし、小売チェーンにおける茶飲料の参入増加に見られるように、清涼飲料水離れが進む若者も、お茶の消費者層として潜在的な可能性を持っている。5 清涼飲料水より甘味が少なく、より自然でおいしい、健康によいといった特徴は、フランスの消費者にとってますます重要視されてきているため、消費者の健康志向の高まりからあらゆる分野でオーガニック製品が増えている。6

また、都市部を中心に、数年前までは年配に人気であったティー・サロンが、若い社会人の方に とってもファッショナブルなものとして人気が高まっている。⁷

<茶の選定理由>

90年代の大手紅茶メーカーの広告キャンペーンの成功や、1993年に開始された国連の食料と農業の促進プログラム(その目的のひとつは紅茶であった)がお茶の人気を後押ししたとされる。

今日では、フランス人はより自然で健康的な飲み物を求めており、清涼飲料水から茶系飲料へと移行し、明らかにオーガニック志向であるといえる。お茶のように「健康」、「自然」、「効能」、「美味しさ」の4つを同時に備えた市販の飲み物はほとんどなく、また、フランス人は自身の体へ摂取するものへの関心が高いからであると言える。8

the/#:~:text=Le%20point%20sur%20la%20consommation%20de%20th%C3%A9%20en%20France%20en%202021&text=On%20connaissait%20le%20go%C3%BBt%20des,boisson%20dans%20les%20ann%C3%A9es%2080%E2%80%A6](最終検索目:2022年12月27日)

⁴ 茶の消費は、首都圏のイル・ド・フランスとフランス西部地方に集中している(JETRO パリ提供情報)。

⁵ ただし、一般的には、若年層が好むのはボトル入りのフレーバーティー、炭酸飲料、タピオカ茶等、純粋な茶の嗜好とは異なる面がある(JETRO パリ提供情報)。

⁶ 注3に同じ。

⁷ 注1に同じ。

⁸ 注3、6に同じ。

<緑茶について>

以下、緑茶に関する近年のフランスの市場動向及び日本製緑茶のフランス進出については、 JETROパリから得た情報(2022年12月現在)を転載する。

フランスにおいて、日本でいうお茶は「thé vert(直訳して緑茶)」として、この緑茶自体は国内市場でもかなり浸透している。スーパーのお茶コーナーのティーパックでも「緑茶風味」というようなフレーバーが普通に並ぶようになっている。またアジア食品店などでは、中国産のお茶(緑茶、烏龍茶、ジャスミン茶など)とは別に、日本メーカーの国外産(アメリカなど)の製品が比較的手頃な価格で売られている。ただ、日本産の緑茶の取り扱いはボンマルシェ食品館(La Grande Epicerie)、ギャラリー・ラファイエット食品館など一部の高級食品店、あるいは前述の「Mariage Frères」、「Palais des Thés」といったお茶専門店、また日本食材店に限定されており、一般の現地流通小売店(スーパーなど)では販売されていない。フランスに多く出回っている「緑茶」の殆どが中国産で、たとえ日本茶を飲んでいても、煎茶にスプーンで何杯も砂糖を加えるなどされている。

現在では、健康意識の高まりに伴い、紅茶自体の消費が以前より減少傾向にあるのに対し、緑茶の消費は上昇している。それは、緑茶の持つヘルシー、デトックス、精神を鎮める、太らない等のイメージに加え、新型コロナウイルスの影響拡大後は緑茶に含まれるカテキンの殺菌作用、抗酸化作用が知られるようになったためと分析されている。フランス人の関心は紅茶から緑茶に確実に移っているが、大衆的製品でも高級品であっても、消費者は緑茶において有機栽培を求める傾向が強いのは前述のとおりであり、日本製緑茶については有機緑茶の認証を取得していないと新たにフランス市場へ進出することが難しいと言わざるを得ない。

玄米茶は、飲料用の茶として最も消費されている。次にほうじ茶、煎茶となる。玄米茶が人気である理由は、フランス人の好む、炒った香ばしい香りと味がするとともに、あまり強すぎない茶の風味が好まれているためである。実際には、緑茶は健康に良いと知ってはいても、抹茶、玉露、煎茶はフランス人にとってはかなり苦みが強いこと、高級茶は価格も高価であること、良質な茶であればあるほど煎じる際の温度が難しいことなどが玄米茶以外の茶の人気が比較的少ない理由である。

抹茶は、そのまま飲用するよりも、抹茶ラテの形で、牛乳や豆乳と合わせた健康ドリンクとして使われていることが多い。また、抹茶風味の菓子の製造原料としても一定の需要がある。最近では、南米の蒸留酒を使った独自のカクテルを出すバーがトレンドになり、カチャーサと日本酒や抹茶、柚子などを合わせたカクテルが出現するなどしており、フレーバーとしての人気は顕著なものがある。

その他、緑茶市場を考察する場合、主に抹茶を食材とする製菓用の需要も大きなマーケットとなっている。抹茶はケーキやお菓子の材料としてよく利用されているだけでなく、飲み物 (抹茶ラテ)、アイスクリーム、もち等にも利用されており、一般人にも知られている非常にポピュラーな素材である。「Matcha」が仏語の辞書に入っているのもその証左といえる

(出典:JETROパリ提供情報)

その他、地方都市(リョン)における日本茶の消費動向調査の結果⁹では、消費者が主にスーパーマーケットで購入しているため、日本茶と中国茶(主に白茶・青茶)との区別がついていないことが特徴として挙げられている。また、茶専門店が卸業者から直接購入しているために、生産者との接触機会がなく、消費者に対する日本茶の満足な製品説明が行われていないこと等も指摘されており、都市と地方におけるアプローチの違いを把握しておくことも重要であると思われる。

<フランスの有機茶市場動向について>

上述のとおり、フランスでは茶の消費において有機茶に対する人気が高まっている。カナダ政府により欧州の有機茶市場分析¹⁰が報告されており、内容は概ね以下のとおりである。

欧州の茶市場は、2016年から2021年にかけて年平均成長率(CAGR)3.4%で緩やかに成長している。

また、2021年の欧州の茶の小売額全体の中で、有機茶部門は7.7%を占めている。欧州の有機茶市場は2016年から2021年にかけて年平均成長率10.9%で成長している。2021年から2026年まで、欧州の有機茶市場は、年平均成長率8.4%と茶市場全体をはるかに上回るスピードで拡大し、2026年には欧州茶市場全体の9.2%を占めると予測される。

有機茶の小売売上は、主に西ヨーロッパ諸国が牽引している。欧州の有機茶市場上位5カ国は、フランス、イギリス、ドイツ、オランダ、イタリアで、2021年の欧州の有機茶小売金額売上高全体の75.4%を占めている。特に、フランスの有機茶市場は2016年から2021年にかけて164.1%拡大し、欧州最大の有機茶市場となっている。なお、英国の有機茶市場も2倍に拡大しており、欧州第2位の地位を維持している。

西ヨーロッパ諸国における有機茶産業の急速な拡大について、健康への懸念に対する消費者の意識の高まり、自然飲料の購入への関心、また社会的・環境的責任への関心の高まりに支えられ、茶分野を含むすべてのホットドリンク分野で有機製品の人気が高まっている。

健康的でエシカル(倫理的)な生活のトレンドは、有機茶分野の継続的な成長を支えるものと考えられる。

また、国内外の大手企業やプライベートブランドが有機製品の提供を拡大しており、有機茶市場が非常に細分化され、競争が激しくなっていることも当該市場の拡大を促進している要因とされる。

⁹ 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)、海外農林水産・食品ニュース「フランス地方都市における日本茶[前編]-リヨンでの消費者嗜好と販売状況-(フランス)」(2018年4月23日)

Government of Canada, Health and Wellness Series - Organic tea trends in Europe - Focus on top five markets [https://agriculture.canada.ca/en/international-trade/market-

intelligence/reports/health-and-wellness-series-organic-tea-trends-europe-focus-top-five-markets] (最終検索日:2022年12月27日)

<フランスの有機茶市場概要11>

有機茶や有機コーヒーなどのホットドリンクは、フランスで確立された健康・ウェルネス製品の一つとなっている。有機茶は、2016年から2021年にかけて年平均成長率21.4%で急成長している。紅茶は最も急速に成長しているセクターであり、2016年から2021年にかけては同38.2%で拡大し、2021年の小売総額は1,060万米ドル¹²であった。なお、同2021年の小売総額が最も高かったセクターは、フルーツ/ハーブティーとなっている(1億2,000万米ドル)。これは、有機製品がより健康的で、エシカルかつ持続可能な方法で調達された製品を選択するようになった消費者需要の高まりに支えられている。

この成長傾向は、2021年から2026年の期間も継続すると思われるが、そのペースは緩やかである。フランスの有機茶市場は、2026年までに年平均成長率16%で成長すると予測される。

カナダ政府が報告において参照しているEuromonitor(2022)では、有機飲料分野の成長は、より健康的でエシカルかつ持続可能な方法で調達された飲料の選択肢を求める消費者需要の継続と、この分野への大手ブランドやプライベートブランドによる投資増加によってもたらされると考えられると指摘している。

<フランスにおける有機茶新製品の発売状況¹³>

2017年から2021年にかけて、フランスでは611の有機茶が発売され、2017年に発売された新製品が最も多くなっている。各製品におけるパッケージングのキャッチフレーズとしては、環境にやさしいパッケージを訴えかけるものであった(362製品)。その他には、リサイクルであることを示すもの(283製品)や、持続可能な栽培地と資源を示すもの(226製品)であった。新製品の発売数が最も多かった企業はユニリーバ(28製品)、次いでヨギティー(26製品)、デスティナティオン(24製品)であった。平均価格は1製品あたり6.46米ドル、100ml/gあたり15.28米ドルである。

¹¹ 注 10 に同じ。

¹² カナダ政府による分析は、市場調査会社 Euromonitor を出典元としているが、当事務所では当該資料を入手できなかったため、カナダ政府による報告のとおり米ドル表記としている。 13 注 10、11 に同じ。

<参考:パリ市内の日本茶関連商品の販売状況14>



お茶専門店「クスミティー」店舗概観 @オペラ地区



ミント緑茶@クスミティー15



お茶専門店「マリアージュ・フレール」概観 @マレ地区



マリアージュ・フレールの店内



マリアージュ・フレールの店内



「牧之原」が冠されたグランクリュ(特級)茶 @マリアージュ・フレール

¹⁴ 写真は、全てクレアパリにて撮影。

 $^{^{15}}$ フランス国内でミントフレーバー緑茶が流通している背景として、フランスの旧植民地国である北アフリカ諸国で緑茶にミントと砂糖を入れた「thé vért à la menthe(ミントフレーバー緑茶)」が広く親しまれていることが背景の1つであると考えられる。



パレ・デ・テ@マレ地区



パレ・デ・テ店内



お茶の香りを試すコーナー@パレ・デ・テ



一番茶 (霧島茶) の販売@パレ・デ・テ店内 ※産地表明している茶は、高価格となってい る模様



アジア食品店 ACEマート@オペラ地区



有機茶の表示(鹿児島産)@ACEマート



茶の販売状況@ACEマート



煎茶・玄米茶の販売状況@ACEマート ただし、本商品の産地は不明記。



日系食品店KIYOKOの茶コーナー



緑茶販売状況@KIYOKO ※主に、鹿児島産、京都産が多い。



深蒸し茶の販売@KIYOKO



煎茶のティーバッグ@KIYOKO



大型スーパーMonoprixの茶コーナー



プライベートブランドの緑茶 (ティーバッグ) @Monoprix



プライベートブランドの有機ミントティー@ Monoprix



スリランカの伝統茶の上質な葉を使用し、環境に配慮している等、エシカルな製品であることを示すパッケージ@Monoprix



市内インド系スーパーの茶コーナー



緑茶Sencha@インド系スーパー

<主な参考情報>

- ・ 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)パリ事務所「日本産海外有望農林水産物品目発掘調査研究 日本茶(フランス)」(2016年3月)
- ・ 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)パリ事務所「日本食品消費動向調査 フランス」 (2017年3月)
- ・ 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)、海外農林水産・食品ニュース「フランス地方都市における日本茶「前編]-リヨンでの消費者嗜好と販売状況ー(フランス)」(2018年4月23日)
- ・ 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)、海外農林水産・食品ニュース「フランス地方都市における日本茶[後編] 入れ方・飲み方の説明の有無が売り上げを左右 (フランス)」(2018年4月27日)
- Etudes-et-analyses.com, Le marché du thé en France [https://www.etudes-et-analyses.com/blog/decryptage-economique/marche-the-france-02-03-2021.html] (最終検索日:2022年12月27日)
- Forbes, Actuali-thés: où en est le marché du thé? [https://www.forbes.fr/lifestyle/actuali-thes-ou-en-est-le-marche-du-the/#:~:text=Le%20point%20sur%20la%20consommation%20de%20th%C3%A9%20en%20France%20en%202021&text=On%20connaissait%20le%20go%C3%BBt%20des,boisson%20dans%20les%20ann%C3%A9es%2080%E2%80%A6](最終檢索日:2022年12月27日)
- France soir, Thé: le boom de la consommation en France
 [https://www.francesoir.fr/lifestyle-vie-quotidienne/le-boom-de-la-consommation-en-france](最終検索日:2022年12月27日)
- · Government of Canada, Health and Wellness Series Organic tea trends in Europe Focus on top five markets [https://agriculture.canada.ca/en/international-trade/market-intelligence/reports/health-and-wellness-series-organic-tea-trends-europe-focus-top-five-markets] (最終検索日:2022年12月27日)
- · Libre Service Actualités, La consommation à domicile de boissons chaudes en plein boom [https://www.lsa-conso.fr/la-consommation-a-domicile-des-boissons-chaudes-en-plein-boom,377188] (最終検索日:2022年12月28日)